

成蹊會誌

第二號

成蹊會結成に 際して

成蹊會々長 丹羽孝三

平和をめぐつて「戦争」が始まり
そうだと云はれ無武裝を誇り乍ら自
衛權で心配する。「建設」「打開」
「解放」を叫び乍ら「行き詰り」「
金づまり」に悩まされる。一體これ
らの空轉や惡循環はどこから來るの
であらうか？ 今の世に生を享けた
吾々に解決を迫つてゐる大きな問題
の一つであると思ふ。特に「世界の
絶對平和」「戦争なき世界」の實現
の可能を前提としなければ意味なき
軍備の全廢を敢行したこの日本に生
れた吾々にとつては更に一層……
これらの問題の論議は既に飽和状
態に達してゐると云つてもよい程で
ある。問題はその解決の事實である
(よしそれが如何に小さくとも)ど
んなに大きく恐い火事であつても
それが画にかいた大火ではタバコの
火一つと云ふのではないのである。マツチの
火は小さなものでも町を焼く人々を
も殺す大火を起すことが出来るので
ある。「絶對平和」をスローガンと
する同志のグループが其の内輪に派
閥の對立や嫉視反目に目を暮す様な
ことがあつてはおかしいのである。
永年卒業生の待望してゐた成蹊各
校の同窓會が正式に大同團結して成
蹊會を結成されたことは見方によつ

ては吾々に大きな意味があることだ
と思ふ。昭和十一年中村先生の十三
回忌を期して、成蹊園、中學校、實務
學校、専門學校、高等學校の卒業生
有志が始め一堂に會し中村先生を
偲ぶ爲に一體となつて其の胸像建設
を議してから本年其の二十七日回忌を
營むまで十數年の歲月が流れた。あ
の時は中村先生の胸像建設者として
前記各校の名を別々に書かねばなら
なかつたしまたそうすることが當時
の實狀にふさわしい狀態でもあつた
ただ僅かに其の建設を記念して作製
された名簿の發行所として「成蹊會
」の名稱を用ひることが出来たに過
ぎなかつた。(然かも其の所在は學
園内とて書かれなかつた)それから
十數年の歲月は吾々に「人の和」を
生活に具現しなければならぬと云ふ大
きな犠牲まで拂はせて思ひ知らせて
與れたのである。民族の存亡を賭け
て新しい世界の建設の方向を「闘
争」「戦争」にではなく「人の和」
に認めたのは日本人たる吾々である
成蹊會の結成は其の日本人の一員た
る吾々が生涯の最も貴重な青年時代
の思ひ出を一つにする集りに「人の
和」の具體化を示す一步を踏み出す
ことを意味するものと云ふことが出
来る民族としての重責自覺の一つの
あらわれとも云ふべきである。成蹊
會員相互の「和」をいかにして個々
の事實に生かして行くかを實踐する
ことはとりもなほさず世界平和實現
の大問題を論議にのみではなく生活

論 說

權利の上に眠る理事會

谷岡喜久藏

過去を振り返つて成蹊學園理事會は
終戰を契機として一變した、尤も日
本のいづれの社會に於てもポグダム
宣言受諾以前と以後とは大變革を
來したが、就中成蹊學園は終戰の
年に理事長岩崎男爵を失ひ據つて立
つてゐた三菱財閥の解體が致命的で
あつた。説を成す者或は「成蹊學園
も之と命を共にする所が當然である
」或は「これを以て成蹊學園は世上
一般の私立學校となり理事者はこの
自覺を持たざる限り學園を經營する
資格はない」と。遺憾なら現在に至
る迄この自覺に缺くる所があり將來
に於ても之を改める氣配すらない。
洵に「未覺池塘春草夢」の通り昔の
三菱王國健在にして岩崎理事長君臨
し理事は並大名然と頭座して然も
現在の成蹊が曾つての黄金時代の如
く運營されて行くと云ふアナクロニ
ズムは過去數ヶ年々の暗黒時代——理
事者が知らずに過したか又は故意に
學園當局が隠蔽したか知らぬが、そ
の例證はいくらでも擧げる事が出来
る——が何よりも證明してゐる。之
等一連の事件に對して何等かの情報
を得ようとして努力させず、従つて適
正なる判斷も下し得ず、拱手傍觀し
易々然としてゐたのである。
今日成蹊學園辛くも體面を保ち、
小學校の建築、運動場の整備、荒廢
した校庭の美化等々加へて年々歳々
千萬圓に垂んとする淨財を集め得た
えるのである。
成蹊會育成の責のこの重大さと身
の微力をなげかわしく思ふにつけ曾
もあれば人類失敗の歴史のかた棒
をかつぐの責をまぬがれないとも云
なるものがある。

第一に理事は名譽職と考へ學園を
自らの手に依つて經營するといふ自
覺に乏しい。これは終戰前の理事會
のあり方であり岩崎理事長にして始
めて可能な形體でこの組織を踏襲す
る限り時代錯誤の誹は免れない。従
つて常務理事の手當は僅かに女事務
員の給料と大差なく、他の理事に至
つては殆んど手辦當である。——こ
の點學園總長も同様である——謂は
ば名譽理事長と名譽總長を戴き他の
理事諸公は夫々本職を持ち二ヶ月に
一度の理事會に出席すれば上の部で
中には年に一、二度でお茶を濁して
ゐる。凡そ常務理事の生活も保障せ
ず、機密費も持たぬ理事會に學園を
經營して此際理事會に豫算をとり、
有能な理事が十二分の能力を發揮出
來るよう方策を立てる事が學園にと
り賢明である。
第二に理事會に對して常に學園に
就いての情報を提供すべきである。
今の理事は例外を除き全く學園の事
情に疎い。如何に理事が熟達練能の
士とはいへ資料なくして責任ある施
策は出来まい。この缺陷は理事會に
事務局がない事に起因する。現在學
園事務局が代理して豫算初め議題は

凡て學園事務局提出であり之に盲印を押してある現状では心細い。常に理事をして關心を持たしむべく努力する必要がある。

現行理事會を改善する意味に於て本年三月私立學校法の施行は喜ばしい。現在の財團法人は來年三月迄に學校法人に切替へなければならぬから、近く寄附行為を改正するに當り慎重審議し、理事者としてその最高責任を果すにふさわしい新たな理事會を作る事こそ、我々に與へられたい大なる任務である。

成蹊會誌に寄せて

今村繁三

成蹊會誌に何か書けとの編集者の依頼であるが、元來私は筆を執つたこともないし又絶対に書かぬことにしてゐるので拒つたところ、是非と強要するのでそれでは兎に角私の宅にお出なさいと云つて谷岡君に來て貰つた。谷岡君が來ると直ぐ原稿用紙を出して筆記しようとしたから「まあお待ちなさい、そうあはてなくとも宜敷しい。これから云ふことを君は筆記してはいけぬ。何を云ふか分らぬから君は筆を置いて聞いてゐなさい。そして家に歸つて私が云つたことの中で参考になることがあつたら可然書いて成蹊會誌に出して宜敷しい」と云つたがさて何を書くやら……

私は最近年をとつて世の中に何の楽しみもなく望もないが東京都心に行つた時又地方を旅行した時急に「今村のおじいちゃんではありませんか私は成蹊を卒業した某です」等と云はれて驚くことがある。よく見ると昔はほんの子供であつた某君がこんなに立派な紳士になつてゐる。こ

ういふ時が一番の楽しみである。こんな譯で卒業生諸君に會ふのが懐しいので近頃は成蹊會の會合にお邪魔させて貰ふ。會合に出て見てつく／＼私は得な人間だと思ふ。何故ならば今や中村君も岩崎君もない私だけが残つたばかりに、この楽しみを一人占めてゐるからで、兩君に相濟まぬような氣がする。

成蹊會の諸君も既に一人前となつて何處の社會に出しても恥しくないと思ふ。私の希望は將來この上も大きくなつて社會から「成蹊會員ならば信用が出来る、決して間違ひはない」と尊敬を集める程の會になつてほしい。それには成蹊會自體自重して假初にも世の指彈を受けるような會員が出ないよう戒め合はねばならぬ。私が卒業した附屬中學校では卒業と同時に自動的に加入出来る同窓會と、卒業後十年を経た後調査した上これなればその資格ありと入會を許される同窓會の二つがあつた。成蹊會員の中で若し不都合があれば除名する程の氣慨でやつてほしい。この意味に於て成蹊學園の教育は將來生徒が卒業して成蹊會員に名を連ねても恥しくないだけの教育をして貰ひ度い。以前は成蹊といふ學校が幹であり同窓會はその枝葉に過ぎなかつたが今は成蹊學園は成蹊會員を養成する附屬機關であつていゝと思ふ。

最近出來た成蹊大學々生は卒業後成蹊會に直結するから先生方は社會人として待遇し、人格を尊重し、小學から高等學校迄は嚴しい躰の下に十二年間に生徒の個性を養ひし、それを伸ばす教育をしなければならぬ。と同時に父兄にも感化を及ぼし子供を成蹊に入學させたお蔭で親も良くなつた云はれるだけの影響力がほしい。以前成蹊に斷食があつた頃、最愛の子供が斷食してゐるのを

思い、自らも斷食した或金持の親の話等は確かに父兄に迄感化を及ぼしたい例である。

今後成蹊會が發展した暁には公共事業を併せ行ふ團體になりたいものだと思ふ。學校も公共事業の一つであるから、先づ母校成蹊學園を後援し、成蹊會の成蹊學園にしたら地下の中村君、岩崎君もどんなに喜ばれることであらうか。

成蹊會事務報告

四月十二日參議院議員會館に於て二十五年年度成蹊會委員會の初會合を行い、左の通り本年度成蹊會の運営方針を決定した。

一、成蹊會々長、副會長選任の件
會長 丹羽孝三、副會長 吉田松太郎、栗林一二、村上正夫

從來成蹊會はその下部組織として、實務、中學、専門及び高校の各學校同窓會を持ちその代表者が成蹊會委員會を形成して、委員會制を以て運営されて來たが、今年度より成蹊會をより強力な組織にする爲、會長、副會長を選定し、會長には専門學校同窓會委員長であり、成蹊學園常務理事である丹羽孝三氏が、副會長には他三校の委員長である吉田松太郎(實務)、栗林一二(中學)、村上正夫(高校)の三氏が推薦される。

二、成蹊會委員、各學校同窓會委員維持會常任委員改選の件。
右役員改選の結果「成蹊會役員一覽」欄記載の通り改選される。

三、成蹊會例會開催の件。從來は各學校別個に例會を開催していたが、集る人員も一定され勝ちとなり殊に高校に於ては委員に限定される不備を是正し且つは地方會員上京の際の便宜をも考慮し成蹊會として大きく

團結する爲、毎月一回(二十一日)例會を開く事に決定した。尚各學校に於て獨自の問題がある場合又は總會等を開催する場合はその都度同窓會を開く事は差支へない。

四、成蹊會勘定設置の件。從來の各學校別々の會計勘定を統合し、成蹊會勘定一本にする事に決定、従つて會費寄附金等以前は各學校區々であつた之を一定する事にした。

五、二十五年年度版名簿發行の件。二十三年度版名簿發行以後會員の移動多く、且つ新會員約七五〇名を新に記載する爲全面的改正の必要を認め名簿の體裁も從來の「クラス」單位を廢し「アイウエオ」順とし、勤務先等もより詳細に記入し、會員の便宜に供するよう作成する事に決定。

六、成蹊會誌發行の件。少くも年四回は發行し第三號より會員の近況を逐次掲載する事に決定

成蹊會日誌(成蹊會第一號記載以降)二十四年十二月七日、丸ノ内日本工業クラブに於て成蹊會主催ダンスパーティー開催、來會者約四〇〇名この日特に横田洋一氏(中學七回)、夫人小夜福子氏が來會され(學九回)夫人小夜福子氏が來會され合間に歌つて下され、バンドも二組の内一組は成蹊ハワイヤンバンド(成蹊生徒)であつた。生ビールは例により森新太郎氏(高校一回)が幹旋して下さる。高柳總長初め、各學校同窓會委員長も参加盛會であつた。

パーティーによる純利益三、三〇九五、〇〇〇は成蹊會勘定に繰入れこの利益金で成蹊會誌第一號を發行した。二十五年二月十九日、日曜日を利用して實務學校同窓生を中心として中村春二先生の墓参をする。午後一時駒込驛集合來會者三十五名故中村先生御遺族始め今村繁三、梅地慎三氏御參列、墓前にて「心力歌」第一章

を齊唱し終つて附近の三菱の寮に於て茶話會開催。

二月二十一日中村先生枯林忌。學園に於ては學園の行事として追悼會を開催講堂が狭い爲午前中三小學校、中學校、午後は高等學校と三回に分け舉行す、小學校、中學校生徒の爲に丹羽孝三氏(専門三回)が講演した。午後五時より成蹊會主催の枯林忌を議員會館に於て開催、來賓として御遺族初め今村繁三、兄玉九十九氏以下來會者約五十名本年は中村先生の二十七回忌に當り有意義な一日を過す。

三月十七日高等學校同窓會委員會を議員會館に於て開催出席者村上委員長以下二十名。

三月二十四日、専門學校同窓會を議員會館に於て開催出席者丹羽委員長以下十名。

四月十日、桃蔭會を大平鐘業會議室に於て開催出席者大類委員長以下十数名。

以上各學校同窓會に於て二十四年度會計決算二十五年年度新役員等を審議決定す。

四月十二日、成蹊會委員會を議員會館に於て開催出席者丹羽委員長以下二十名。上記掲載の議題を議決す。

學園に於ては丹羽常務理事、村上大倉、兩理事が毎回理事會に出席し成蹊會の意向を反映しつゝ學園の經營に參畫され、一方新制大學擴充計畫の一環としての中學校々々舎新築に關しては建設委員會が設置され之に會員小野薫(東大教授)高山英華(東大教授)及吉武泰水(東大助教授)の三氏が參加し學園の爲に盡力している次第である。



曩に二十三年度版會員名簿を發行してより一年有半を経過しましたがこの間會員の異動も尠からず、新に二十四年度以降の新卒業生名簿も加へて今回二十五年度版を發行（七月豫定）することになりました。就いては會員諸君のより詳しく動靜を知る必要がありますので同封しました名簿カードに御記入の上至急御送附下さい。

實務學校 (桃蔭會) 委員長	吉田松太郎	副委員長	竿代 靖
1回 野村正好	磯部慎治	2回 太田千鄉	安野智
2回 谷村秀等	吉田松太郎	4回 若林卓彌	青山太仲
5回 半田積善	黑澤清	6回 清水聰司	竿代靖
7回 小倉勝	小澤明	8回 久米成次	大西雄次郎
9回 島田正雄	宮崎弘文	10回 北濱健一	田中全太郎
11回 高田享	高木太郎		
中學校 (桃源會) 委員長	栗林一二	副委員長	永田龍之助
1回 伊藤友一	2回 中野惇	3回 岩下順太郎	4回 多田穰
5回 栗本東一	6回 森太郎	7回 横田洋一	8回 石原巖
9回 井上秀郎	10回 大久保通忠	11回 小野宗一	12回 中平彪
13回 藍澤吉雄			
專門學校 委員長	丹羽孝三	副委員長	龜井壽雄
1回 相原茂	2回 小鹽高弘	3回 土方猛行	3回 阪本舜之助
5回 渡邊一美			
別科1回 龜井壽雄	2回 井上五郎	3回 田中正太郎	
高等學校 委員長	村上正夫	副委員長	河野義克 横山勝義
1文 三好道矢	1理 藤野米吉	2文 大倉恒光	2理 細野良久
3文 中屋健式	3理 中村浩	4文 中村武嘉	4理 南部浩
5文 佐藤泰正	5理 田賀秀和	6文 河野義克	6理 後藤一雄
7文 值賀駿一	7理 渡邊千春	8文 永井邦夫	8理 横山勝義
9文 田中榮一郎	9理 吉武泰水	10文 今泉丈夫	10理 青野惣一
11文 井上季造	11理 赤星國夫	12文 前藤薰	12理 平井秀松
13文 尾高一郎	13理 川越邦雄	14文 内田達郎	14理 日野貞雄
15文 岩崎英二郎	15理 竹内端夫	16文 山手享	16理 高桑秀雄
17文 石井親	17理 杉本正勝	18文 松平直壽	18理 宮川總一郎
19文 丸山英二	19理 紺野邦夫	山崎英也	20文 緒方四十郎
20理 栗飯原景昭	信澤利世	黑崎昭二	21文 杉村弘二郎
安藤昭三	21理 島村和也	山岸常夫	藤原史郎
22文 酒井利之	小林彰太郎	22理 上原邦雄	23文 山本幹夫
鈴木稔	23理 幡鎌秀夫	鈴木彌彦	
24文 (24年3月舊高1年修了)	飯島哲夫	松原浩郎	宮崎宏二
24理 (24年3月舊高1年修了)	土屋正彦	大井芳郎	久保盛唯
新制高校1回	井川舜喬		

かねてより成蹊學園出版部設置の氣運があつたが、去る三月十五日を以て一應發足することになった。元來成蹊學園出版部は故中村春二先生の發意により大正のはじめ池袋に設立され、昭和のはじめまで活動を續けていたが、その後自然消滅の形をとつていた。然しながら文化國家建設の一翼として出版事業が極めて大きな役割をなすことは言を俟たざるべきところであり、ここに良書の刊行普及を通じて新しき文化昂揚に貢獻する使命を帯び、従前の出版部とは全然機構を改めて、發足したのである。

る本年は恰も故中村先生の二十七回忌に當る年でもあり、一入意義深いものと信ずる。幸いにして同窓生、學園教職員、父兄各位の支援あり、豊富な執筆陣と画家を擁していることは何よりも強味であり、出版部の前途は非常に明るい。とはいえ、時下經濟事情逼迫の折柄、幾多の困苦が豫想されぬでもない。この點同窓生諸兄の絶大な御聲援を期するや大である。

出版部の本部は今の處成蹊會事務

所に置き、又東京都千代田區神田町一ノ一三「一世印刷株式會社」内に連絡事務所を設けた。又業務に關しては谷岡喜久藏氏、編集に關して

職員	武内大造	22年3月21日
手塚宏壽		22年11月12日

下間	佐吉	22年12月31日
阪口	玄章	23年2月18日
堤	長正	23年4月22日
淺野	孝之	23年7月25日
草川	信	23年9月20日
橋本	統陽	23年11月9日
安藤	幹	22年8月14日
石原	博之	22年10月14日
藤村	敬	23年7月29日
大坪	宜雄	24年1月
近藤	貞純	24年9月10日
松岡	節夫	24年12月22日
藤村	裕三	25年12月22日
金子	貞俊	25年4月21日

謹みて哀悼の意を表します。尙覺
員逝去の節は御一報願います。

卒業生職員一覽

(二五、四、一現在)

河北惠文	講師。大學
鷄山德爾	專任。大學
營原吉彥	專任。高校。大學
井本農一	講師。高校
伊 豐彦	講師。高校
田中三千夫	講師。高校
高橋和夫	專任。高校
岩崎英二郎	專任。高校。大學獨語
丹羽孝	講師。中學
讀谷山朝典	講師。中學
太田演三	專任。小學
中村浩	講師。小學。中學理科生物
國圖工作	圖書工作
體育講義	哲學

會員一覽

(二五·三·三現在)

卒業生總數
死亡者
住所不明者
現在總數
會費納入者（一部納入者を含む）

成蹊學園職員學生一覽

(二五·四·二〇現在)

2: 専門高校の重複者を除く

職 員 數	學 生 數
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	10
11	11
12	12
13	13
14	14
15	15
16	16
17	17
18	18
19	19
20	20
21	21
22	22
23	23
24	24
25	25
26	26
27	27
28	28
29	29
30	30
31	31
32	32
33	33
34	34
35	35
36	36
37	37
38	38
39	39
40	40
41	41
42	42
43	43
44	44
45	45
46	46
47	47
48	48
49	49
50	50
51	51
52	52
53	53
54	54
55	55
56	56
57	57
58	58
59	59
60	60
61	61
62	62
63	63
64	64
65	65
66	66
67	67
68	68
69	69
70	70
71	71
72	72
73	73
74	74
75	75
76	76
77	77
78	78
79	79
80	80
81	81
82	82
83	83
84	84
85	85
86	86
87	87
88	88
89	89
90	90
91	91
92	92
93	93
94	94
95	95
96	96
97	97
98	98
99	99
100	100

專任 三
六

講 二

專任
二五
六

專任 三

講師
二〇

專任 元

講師 三三

五

1101 1111

會 計 報 告

	實務學校 (24.11.1 25.3.31)	中學校 (24.11.1 25.3.31)	專門學校 (24.11.1 25.3.31)
収入ノ部			
會費、名簿代、 寄附	4,850.00	6,250.00	5,150.00
前期繰越金		45.00	900.00
収入總計	4,850.00	6,295.00	6,050.00
支出ノ部			
成蹊會納付金	3,000.00	5,000.00	4,000.00
通信費		200.00	150.00
集會費		150.00	
事務費		2,500.00	
贈與金 (中村先生未亡人)	500.00		
支出總計	3,500.00	7,850.00	4,150.00
差引次期繰越金	1,350.00	(-) 1,555.00	1,900.00

高等學校 (24.4.1~25.3.31)
収入ノ部
會費名簿代寄附 62,560.00
記念祭利益金 32,471.04
利息 819.00
前期繰越金 1,851.83
97,701.87
支出ノ部
借入金返済 51,541.00
(木梨氏20,000.-)
(田山氏10,000.-)
(藍澤氏10,000.-)
(他各校11,541.-)
集會費 8,880.00
通信印刷費 4,722.00
人件費 10,000.00
成蹊會納付金 10,000.00
弔慰金 1,000.00
(大坪氏500.-)
(藤村氏500.-)
雜費 1,190.00
次期繰越金 10,368.87
97,701.87

成蹊會 (24.11.1~25.3.31)
収入ノ部
實務學校納付金 3,000.00
中學校 " 5,000.00
專門學校 " 4,000.00
ダンスパー ティー利益金 33,035.00
前期繰越金 686.00
45,781.00
支出ノ部
成蹊會誌第一號 發行費 29,650.00
事務用品費 400.00
集會費 200.00
通信費 450.00
事務費 10,000.00
枯林忌費用 1,500.00
弔慰金 2,000.00
(成蹊女學校奥田先生1,000.-)
(小瀬松次郎氏1,000.-)
次期繰越金 1,581.00
45,781.00

(註) 現在未返済ノ借入金
20,000圓アリ

成蹊會財政報告

成蹊會誌第一號掲載以後本年三月末日迄の會計報告は上記の通りであります。詳細は成蹊會委員會の席上で説明致しましたから省略しますが之を要するに四學校の次期繰越金過不足を計算すると次期繰越損金は六三五・一三錢となります。申す迄もなく成蹊會運営の財源は會費、名簿代、寄附金及び催物益金であり、就中會費、名簿代收人が根幹となつてをります。試みに二十三年以後の會費收入狀況を説明しますと現在會員數（住所不明及死亡者を除く）一、九八八名中會費納入者（一部納入者を含む）九〇七名で一、〇〇〇餘の會員が未納であり之を會員一名に付會費年二〇〇圓とすれば二〇萬圓の未收入となります。之が爲二十五年度豫算を組む場合、會員の約半數を會費不拂として考慮しなければならぬ、勢い會費も高くなり、會費納入者に迷惑を掛ける結果となります。過日の成蹊會委員會に於て本年度會費は一般年三〇〇圓、學生年一〇〇圓と決定し、二十四年度以前の會費名簿代未納者については一應之を打切る事としましたが、若し御支拂下さる仁があらましたら寄附金欄に御拂込願います。

尙本年度より從來の各學校別勘定を統合して成蹊會勘定一本に纏めらる事にし、成蹊會々計として成蹊會委員長藤田信平氏（西日本重工業株式會社）にお願ひすることになりました。會蹊會が大發展を遂げるにはその裏付けとして財政的基盤がなければなりません。何卒會費を御拂込下さる様切に御願ひ申し上げます。

+

+

+

+

+